

善光寺御開帳・奥信濃快晴

5月27日（火）晴れ

曇り空を覚悟で、長野にむかう。切符をかってからも、中田さんや橋本さんと打つあわせをして、時館を少し変更した方がよくなり、結局、11時20分大宮発の浅間にのり、12時半に長野につく。六花舎へつく時間が早すぎるので、調整のため駅の外にでて食事をした。さすが善光寺の御開帳で駅に人が多い。

黒姫まで普通列車でいった。久しぶりの登り坂に、汽車時代を思い出す。駅で六花舎の主人の迎えをうけ、宿舎についたのは2時半だった。黒姫は雨のなかに微かに見える程度。深緑は流石に若い。

橋本さん親子が見えたのは3時、それから30分雑談し、半から2時間以上一哉君と話す。要は挫折だが、自分のやったことの危険性を知りながらそして失敗でありながら、私の感じでは後悔も反省もない。失敗したとクールに認めているだけである。そして世の中との関係を修復する意志ももっていない。それでいて復帰したいのだ。矛盾だらけだが、それを知っているのだから始末が悪い。

大学へ行ってみたらと勧める。木工や材木や、そしてオークビレッジなどに夢をもったあとの処理として論理性を感じられるからである。

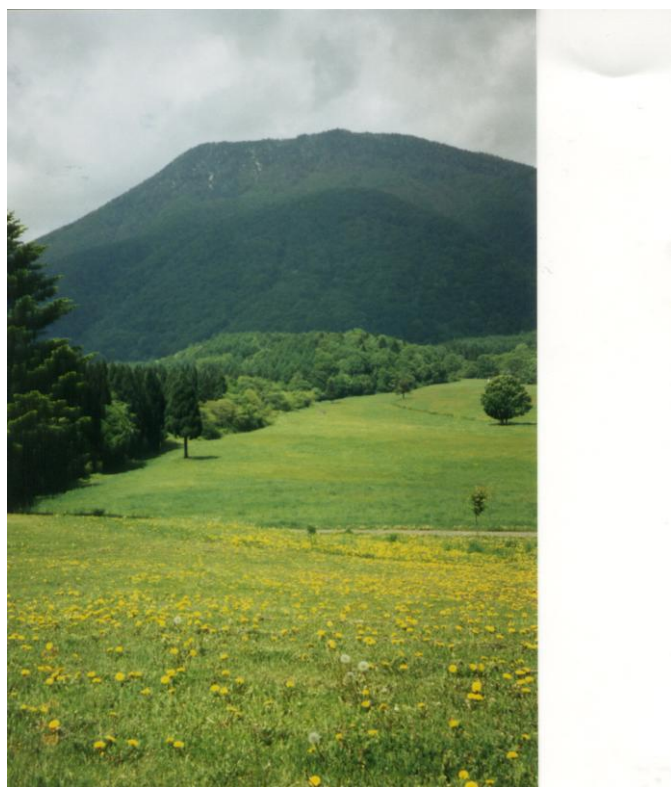
夜は例のアルテックA7を楽しむ。ファゴットがこの上なく美しく鳴った。

5月28日（水）晴れ

快晴に近づく。今日は去年と違って主人がいるので、荷物を置いて、黒姫山麓にでる。童話館まで送ってもらい、写真をとる。その前でボートしていたら、みるみる快晴に近づいた。黒姫を左に、右に雪を残した妙高の裾のが流れていく。前景は芝生と落葉松。この景観はそのまま絵である。私のこのうえなく愛する光景である。

30分楽しんでから御鹿池へ行く。ここは黒姫の覗く明るい池。そのくせ水は澄んでいない。絶えず流れこんでは、吐き出す流路のような池である。緑が水表面に反映し、目を楽しませる。遠くで日暮らしの泣き声らしいものが聞こえる。1時間。

遠回りに池を迂回したら、犬をつれた外人に一人あった。林をぬけた位置からの妙高はいい。前景の



孤立したスギやカシが芝生につきでて、妙高に彩りを添える。

バスはこない。芝生を歩くのは悪くないが、15分あるい（童話館入り口）

た中心地のコスモス畑でも人にあわない。すべてが準備中である。せめてソフトクリームと思ったが無理だった。芝桜の美しいそば屋だけ営業していた。（御鹿池）

帰路の水芭蕉生息地には化けた葉に一枚花びらが残っていた。

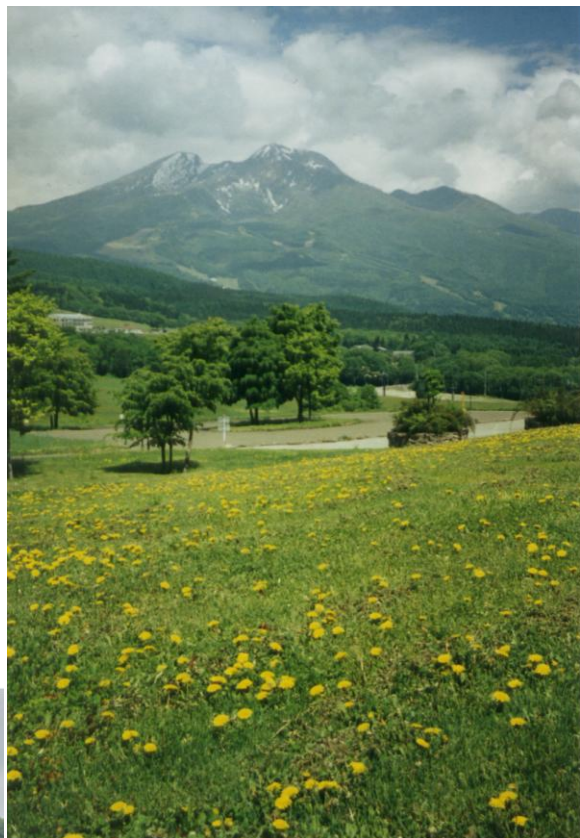
10時前にでて帰宅は12時15分、一休みして駅まで送ってもらった。

列車は三歳までのった。そこに橋本夫人がきていた。何故ここで落ち合ったのか、彼女の運転目的地は話しによると、長野駅らしいからだ。単に車がおきやすいからに過ぎないらしい。



長野の駅前の東急に入って、ここでクリオコワ。どうもわからない。食後、延々20分のとって、浅川西条の橋本宅へ。それほど大きくないのにタップリとれたスエーデンハウスのお宅だった。旦那がいた。前回あっているから初対面ではない。30分ほどの世間話の終わるころ、やっと中田さんと連絡がとれ、近くのガソリンスタンドで待っているという。東京でも、長野でも中田式時間管理は変わらない。そこから野尻湖までもどる。いつもの通り路ではあるが、野尻湖から更に奥に入ったので、40分は乗っただろう。

ハーヴェストという東急系リゾート貸しマンション



につく。もう設立20年はたっているらしい。ゴルフとスキーが売り物である。日本人は自然が好きではないから、こんな所に長い間いられる筈はない。つまり見えと珍しさで滞在するが、可及的に長くここにしようとしなないから、当然レンタルマンショ

ンの所有意欲は減退。つまり権利価格は低下し企業はあやしくなる。昔1800万円、今400万円らしい。

自然好きの人にはこの上なくゆったりとした雰囲気で作られていて好ましい。色は淡い褐色で、刺激は弱く、装備は十分である。ベッドが少し幅狭か。風呂は会員のキーがないと、ドアが開かなかった。



5月29日（木）晴れ

ゆったり眠れた。朝も風呂。食事は一階で洋食。ごく当たり前である。窓越しにゲレンデが見え、ミドリに向かってゴルフの打放しを有閑マダム3人がやっていた。食事を終えて外

にで、ゴルフコースに近づいてみた。空はじょじょに快晴に近づき、日差しが強い。黒姫の横に戸隠



の最高峰が覗く。そちらへ向かって緑の絨毯のような視界が広がる。空は青であり、花畑がそこここに見える。一日ここで過ごしたいとの思いもあったが、10時に中田さんが迎えにきた。野尻湖沿いの小道は素敵で、水の碧さも際立つ。新工場は完成していた。予

想以上にすっきりしていた。人目で工場の流れもよくわかる。清潔感に溢れているのが何より好感をもてる。ps工場の他、第一、第二工場もみる。これは従来ど



おり。でも様になってきた。

打ち合せは新知識と現状報告。久しぶりなので面白かった。社長がこっている陰イオンは磁場とそれによる空気のイオン化を指すのではないか。全く嘘ともいえない。

2時すぎ、戸隠につれていってくれると言い出した。今日は東京へ帰るのだけど、とは言い出せない。中田式時間管理方法に従うのが経験上ベストである。

山への路の周りは見事な浅い緑で、戸隠の雪とともに地上を忘れさせた。人もさほどおおくない。中社の奥に、ぎりぎりに耐えていた水芭蕉が数花あった。勿論記念写真である。昼はいつものそば屋で、戸隠連山を見ながら食べる。幸せなことだ。

下りはループ橋を下り、浅川



も御本尊をみた人はいない。

車に乗って中田さんは初めて列車のことを聞いた。勿論定などないが、この話しがここまで出なかったのは中田時間管理術である。5時10分発の浅間のグリーン車だった。行きは9700円、帰りは11300円。グリンの価格は二人で2000円、一人わずか1000円なか。

3日で24000歩、55キロ

を通過して市内へ入る。長野善光寺の御開帳とか、公園の上の路上に車を捨て、つれていってもらった。

人が幸い少なかった。前柱尊とかいう柱から紐が本堂内の御本尊までかけてあるとか、その柱に四方からべったり手をあて、全身を任せる祈願の仕草が



面白い。誰予式帰一の

